



1973年12月25日 第186号
発行 新潟県巻町役場
電話 代表 3131
編集 商工 観光 課
印刷所 北洋印刷株式会社

住民基本台帳人口
(昭和48年11月30日現在)
総人口 27,066人
男 13,472人 女 14,131人
世帯数 6,382

交通輸送体制を確保

違法車両は取り締まる



路上駐車は除雪のガン、みなさんのご協力を

除雪対策

町では十一月十一日、警
察署、消防署、交通安全協
会、建設業者、交通運輸業
者、商工会、区長会の各代
表者から集まってもらい、
除雪対策協議会を構成、除
雪作業の調整や雪害予防等
について協議し、町民のみ
なさんのご協力を得ながら、
巴清な除雪作業の実施にと
りくむことにしました。

町では十一月十一日、警
察署、消防署、交通安全協
会、建設業者、交通運輸業
者、商工会、区長会の各代
表者から集まってもらい、
除雪対策協議会を構成、除
雪作業の調整や雪害予防等
について協議し、町民のみ
なさんのご協力を得ながら、
巴清な除雪作業の実施にと
りくむことにしました。



小荷物の中はふるさとの味がいっぱい (14日うつす)

十二月に入り巻町では毎
日お正月用品の小荷物ラッ
クが続き、駅員総出で受け
付けにおわれています。
中みは、おもちなどがほ
とんどで薄くの親せきや家
族に、ふるさとの味を染し
んでもらおうと一日百個以
上の小荷物が持ち込まれ、
ほとんどが東京方面に送ら
れています。

ふるさとの味を送る

十二月に入り巻町では毎
日お正月用品の小荷物ラッ
クが続き、駅員総出で受け
付けにおわれています。
中みは、おもちなどがほ
とんどで薄くの親せきや家
族に、ふるさとの味を染し
んでもらおうと一日百個以
上の小荷物が持ち込まれ、
ほとんどが東京方面に送ら
れています。

四ツ谷、駅前通り混雑緩和

県道巻 浦浜線と巻町車
道新町線の交差点(通称大
阪屋前)のすみ切り工事が
行なわれています。
この工事は、駅前通りか
ら漆山方面や四ツ谷通りに
向かう自動車の右折が困
難なことを、見直しが悪い
れたものです。

堀山団地児童遊園が完工

新設された児童遊園は、
団地にフェンスをめぐらせ、
中に自動車はいれないら
うに、子どもの安全性を
高めています。
園内の施設、設備として
便所、水のかねた水銀灯
砂場、おもちゃ場があり、
遊具としては、シーソー、
遊動木、低鉄棒、すべり

内科病棟に専用電話

町立病院内科病棟一階に
二二三-一三三、二階に二
三二-一五の専用電話を入
れましたのでご利用ください。

お願ひ

十一月五日、全町を対象
とした区長さんの連絡協議
会をつくらうと、各地区の
代表区長さんが役場で会議
を開きました。
各地区区長さんはそのま
まとし、その上部組織として
協議会をつくり町行政へ協
力しながら活動していこう
というもので、巻地区、漆
山地区、峰岡、浦浜地区、
山形地区、角田、越前、
松野尾地区、

区長会が協議会結成

四ツ郷地区の代表区長さ
んが出席しました。
協議会では、協議会の結成
には全員賛成で、名称を巻
町区長連絡協議会とし、区
長には佐藤秀雄さん(二区
区長)、副会長には各地区
区長を委ね、事務局を巻
地区におくことにしまし
ました。
また、巻大祭と町民運動
会も議題としてとりあげら
れ、祭りは全町一本化が望
ましいが、内容を考えた場
所。

巻大祭などで町に申し入れ

合、神社の祭りではなく、
産まつりという形態にし
て地区へ働きかけたらよ
い、町民運動会も全町一本
化したいものが望ましい、と
いうこと町へ申し入れを
しました。
現在は各地区ごとと区長
会があり、地区独自の行事
なども計画して活動してい
ますが、全町の区長さんが
集まる機会は年一回の区長
会だけで、内容を考えた場
所。

幼児の交通事故ゼロへ

呼びかけ指導してきまし
た。
その第一号として十二月
五日巻保育園トキちゃんク
ラブが誕生しました。

クキちゃんぞくぞく誕生

山早苗、内藤秀幸、葉賀場
遠藤敏雄、前田石塚みよし
船越敏下、柴二男、染町彌川
英子、十一、原嘉藤るみ子、
下田山田、ナリ、漆山一、
下田光夫、二の丁大川恵
利子、長谷川よしえ、八の
丁栗本政博、稲島本間恵子
丹野伊藤まり子、松野尾山
本孝子、横山秀子、角田小
森隆徳、佐藤一、越前小川
川三三子、仁藤児島千恵
子、布目嘉藤恵代子

冬の交通事故防止

冬は積雪、凍結による
道路条件の変化、忙しい
年末年始に於いての飲酒
などから、スリップ、過
労、飲酒などに起因する
交通事故が多くなりま
す。
歩行者、
運転者おた
がいに正し
く、交通ル
ールを守り冬
の交通事故
防止をせま
らねばなら
ない。
急ブレーキ
を踏むこと
も、子ども
やおや
年寄りが
多いため、
常
に前方に
注意して
ください。
人車事故
をなくす
べく、見
守りにつ
つてくだ
さい。

スリップ、過労、飲酒に注意

急ブレーキを踏むこと
も、子ども
やおや
年寄りが
多いため、
常
に前方に
注意して
ください。
人車事故
をなくす
べく、見
守りにつ
つてくだ
さい。

赤あちゃん

赤あちゃん
赤あちゃん
赤あちゃん
赤あちゃん
赤あちゃん
赤あちゃん
赤あちゃん
赤あちゃん
赤あちゃん
赤あちゃん

岩波結城

岩波結城
岩波結城
岩波結城
岩波結城
岩波結城
岩波結城
岩波結城
岩波結城
岩波結城
岩波結城

大原光代

大原光代
大原光代
大原光代
大原光代
大原光代
大原光代
大原光代
大原光代
大原光代
大原光代

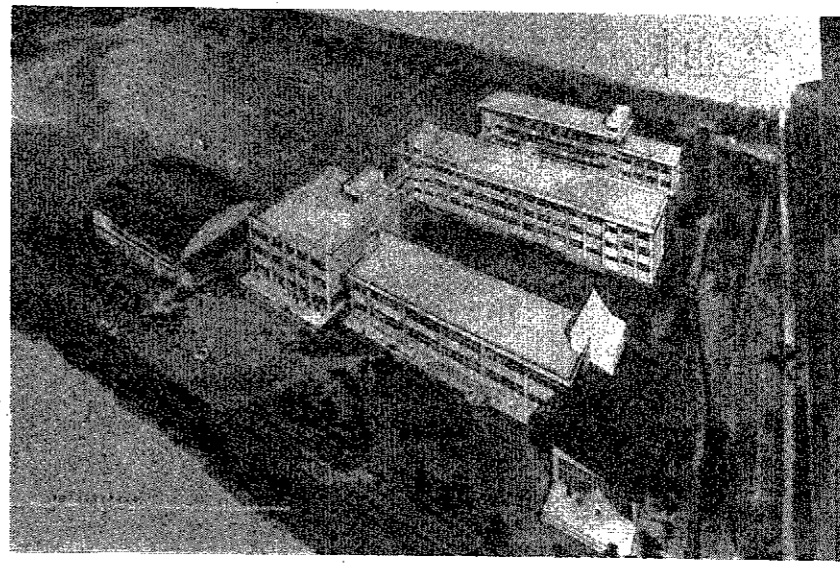
Birth announcements for children born in 1973, including names like 赤あちゃん, 岩波結城, and 大原光代.

1973

写真で見ると見る町の足跡

巻小改築

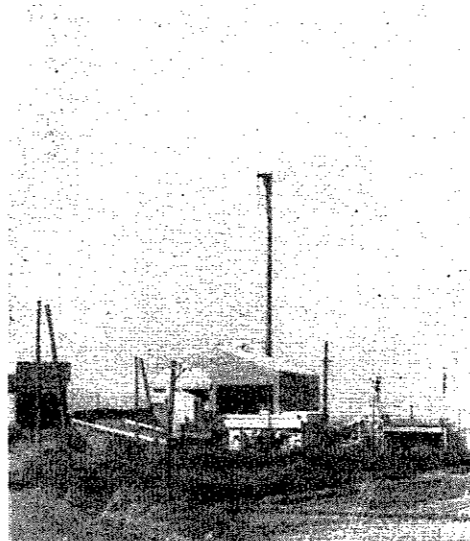
して行なうものです。位置は矢野川野町地内、四十八、四十九年度の二か年度連続で高学年普通教室棟(鉄筋コンクリート二階建て、十八教室、面積三千四百十八・八三平方メートル)を完成させます。その後、新設校舎としての許可をとり、四十九年度から低学年普通教室棟、管理棟、特別教室棟、屋内運動場、屋外グラウンドを、ついで着工する予定です。現在は、くい打ち工事が終わるまで、旧校舎にいます。



新しい学校の完成模型図

土木建設

橋本市内土木建設は、今年度で市街地の工事が完成する見通しです。五年度までに残りの主要幹線(工業教育センター架け替え工事を進めてい



20トン焼却炉が増設されたじんがい焼却場

焼却場

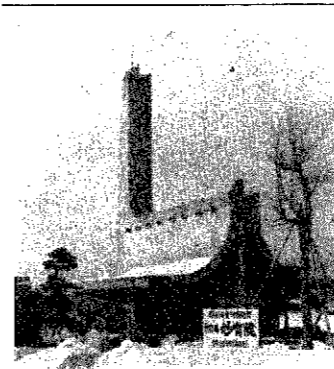
焼却場の指定に基づき、旧焼却場の指定については、旧焼却場による地域指定とあわせ、専門家を設けて立案作業にあたりま



着工進む都市下水路工事(旧中江橋道)

妙有院

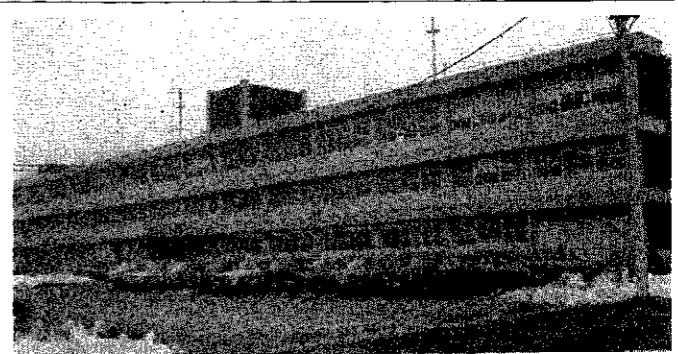
巻町・岩室村浄土宗組合で、非宗教的「妙有院」の排ガス(煙)と臭いの解消にとりくみ、工事費四百四十九万円を無償無利息で提供し、取り付け工事を進めています。これが完了すると、処理された排ガスは無煙無臭になり、明るい浄土宗のイメージアップされます。



イメージアップはかる妙有院

県巻総合庁舎

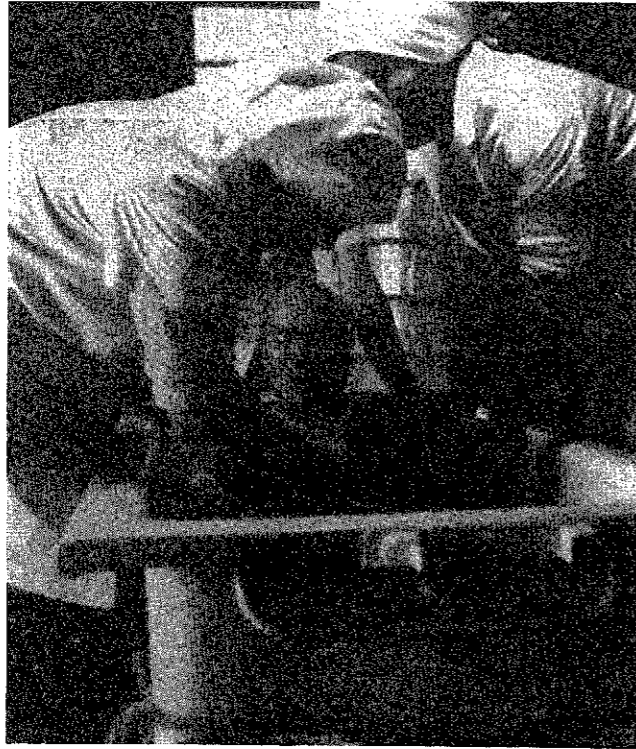
町民待望の県巻総合庁舎が、七月に完工しました。赤さび地内、四十七年七月に着工され、三百六十日の工期で進められていたもので、鉄筋コンクリート三階建て、延べ面積二万八千九百平方メートルの総合庁舎にふさわしい建物です。九月二十日に県知事、県議会議員をはじめ関係者百人が出席して、完工式を行いました。



県の出先機関を1か所にまとめた県巻総合庁舎

社会福祉

福祉法人に認可され、福祉施設の維持体としてスタートするとともに、県下初の試みとして移動巡回入浴車を導入しました。八月から活動を始め、寒い場として、漆山住吉神



県下初の入浴サービスに老人もごきげん

社展に「老人もごきげん」を建設、老人家庭福祉員を一名増やすなど、町の実情にあつたきめ細かい社会福祉事業を進めています。

社展に「老人もごきげん」を建設、老人家庭福祉員を一名増やすなど、町の実情にあつたきめ細かい社会福祉事業を進めています。

学術調査

四十五年から続けられていた角巻文化財調査は、今年度調査をつくり調査を終りました。



貴重な資料をえた生物調査

農村により老人が数人住むだけの角巻遺跡を、歴史、民俗、考古、自然等を総合的な観点から調査するもので、史学員が中心になり自然、歴史、生活民俗、今年度調査をつくり調査を終りました。

角田山塊生物調査は角田山塊(海岸線も含む)の自然環境や動植物の分布状況などを学術的に調査しているもので、チヨウの生息地は北限といわれるモンキアゲハを調査、海苔でも新種を発見しましたが、反面自

角海浜

明治時代に、が住むだけの部落になりました。十月十五日は、部落最後の日。秋祭りをしました。来年の春には、全員が移住が予定されており、巻町から角海浜がなくなることは三世代五人になります。



これで最後の秋祭り

スポーツ

小中学生も参加のオリエンテーリング大会(角田山ろくで)

千巻団体育会主催の東北海北陸ブロック予選大会が八月十九、二十日の二日間、巻工業高校で開かれ、福井県が千巻団体の出場権を得ました。十一月三日には巻地区運動会が開かれ、千五百人の参加者で盛況でした。町民スポーツも各地区運動会、オリエンテーリング大会、籠球大会、町民登山大会、籠球大会、ハイキングなど多彩な行事が行なわれ町民にとってスポーツに親しみました。



20集をかぞえ、各方面に好評の双書

双書

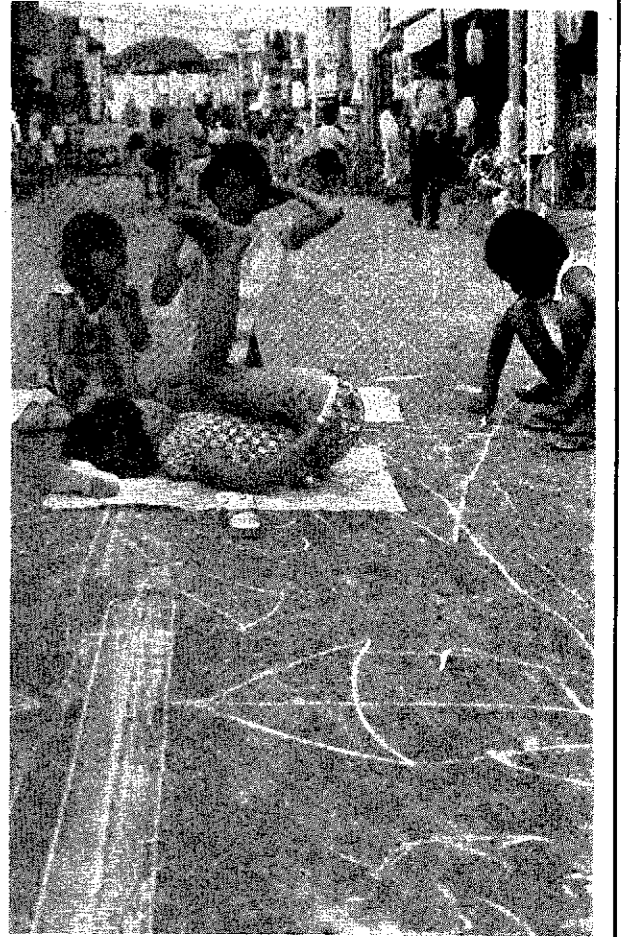
双書は、第十九集「犬香まはる」第二十集「三根山」と、別冊「愛蔵探訪記」が発行され、昭和三十五年に第一集「町の風土誌」が発行されて以来、すでに二十集をかぞえるまでに達しました。この双書は、町の年輪、町の表情、町の夢などをいろうか小冊子にまとめ、町内外広く各方面に「巻町」を紹介しようとして発行されました。



庄巻の前夜祭恒例の民謡流し

まつり

例の民謡流しで開幕。十五日はどんよりした夕空を吹き飛ばすような夕の空をならべ、期間中延べ五万人が繰り出し、大祭を盛り上げました。



自動車のことを忘れてのんびりムードの子どもたち

歩行者天国

警察署、交通安全協会、商工、商店、学校関係者、町などが全面的に協力し、市内に歩きがけ歩行者天国を実施しました。



自分だけは大丈夫とはいきませんが(役場前十字路で)

交通

町道防護、区画線、反射鏡、道路標識などの交通安全施設の整備に努めるとともに、町駐車場建設のため西浦原土地改良区(七区)敷地二千三百九十一・五三平方メートルを買収、四十九年度に建設工事に着手する予定です。



騒音公害にも目を光らせる(四ツ谷通りで)

公害

公害対策では、規制対象工場の立ち入り検査、都市下水路の終末と、鯉川川の下流部を調査、騒音測定器による騒音公害にも目を光らせています。

観光

観光のシンボル角田山は、豊かな自然が人気を呼び、今年も登山者が五万人をこえ、にぎわいをみせました。



46万人でにぎわった海の観光

工業

四十七年十二月三十一日現在で行われた工業統計調査の結果、事業所総数二百一、製造品出荷額等七十八億七千万円となりました。

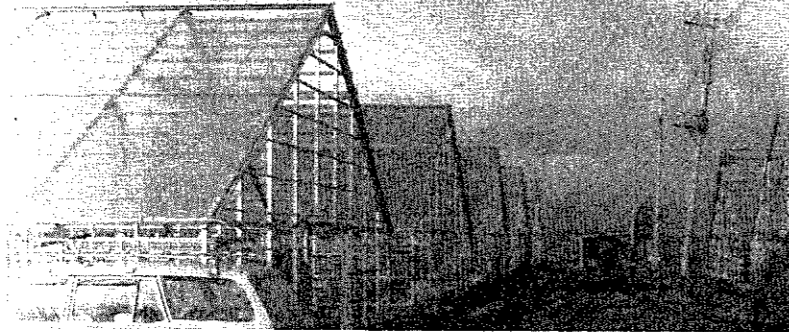
農業

今年の稲作は、春以来の天候にも恵まれて豊作型。農家が政府に売った米の数量は十九万三千五百十俵(二万一千五百八十九トン)でした。

数量だけの単純な比較では昨年より二万二千二百俵ふえています。しかし、米年度の単純体排糞助金打ち切り措置などが出ている中で、町では松野地区で露地野菜特別対策事業、水種の複合経営として東町でレンコン、ハウスへの転作を積極的に進めています。



ことしは豊作型だったが農家の表情はきびしい(安反郎着で)



水稲単作経営からの脱皮めざす東町ハウス



めづらしくなったハザづくり(平沢部落で)

風物詩

最近では農業の機械化で、越後地方の代表的な風物詩である「ハザ」が、だんだん少なくなっています。

消防

四月九日の寺町火災は、寺院・保育所・住宅あわせて約三千五百平方メートルを全焼しました。



大きな被害を出した寺町火災

盆おどり

年年さかんになる盆おどり(仁箇部落で)

お盆から八月いっぱい、各部落で秋祭りといふじきに盆おどりが行なわれました。

冬の火災予防

冬は火を扱う機会が多くなり、また家庭も多くなり、火災の発生も多くなります。

水道課からのお知らせ

トナボを巻き、その上に保線材がぬれないよう、ニールテープなどを巻きつけます。

